

I - C - 11

## CCl<sub>4</sub> 肝障害に対する利尿剤（五苓散） の作用—第1報—

近畿大学東洋医学研究所第I研究部門

○秋山一誠、織田真智子、中西由香、阿部博子

【目的】漢方では水の動態と病態との関連性を重視し、生体内の水の分布や吸収、排泄を調節することによって病気治療を行おうとする考え方があり、このような作用をもつ漢方薬は利尿剤と総称されている。本研究では、肝疾患時の水代謝の変動や加湿の影響などを観察すると共に、利尿剤の代表的処方とされている五苓散の作用について検討した。

【方法】Wistar系♂ラット8W令を6群（1群12匹）に分け、1～3群を通常条件飼育（室温 $23 \pm 2$  °C 湿度50%）群とし、4～6群を高湿度環境飼育群とした。1、2、4、5群を対照群、3、6群を五苓散投与群とした。五苓散は構成生薬である沢瀉、桂皮、茯苓、猪苓、蒼朮の粉末（日本粉末薬品株式会社製）を1：1：1：1：1の比率で混和したものを、0.1g/1匹となるよう水道水で懸濁して強制経口投与した。対照群には水道水のみを与えた。7日間五苓散を前投与したのち、1～3群のみを高湿度環境下に移し、16時間目に各群の2、3、5、6群にCCl<sub>4</sub>ガスを20分間吸入させた。その後、24、48、72時間目に採血し、血清GPT値を測定するとともに、肝臓の組織所見を光学顕微鏡にて観察した。

【結果】通常環境下において飼育したラットにCCl<sub>4</sub>を投与すると24時間後の血清GPTは3276 U/Lと上昇し、肝組織所見においても著しい障害が認められた。五苓散投与群のGPT値は $2599 \pm 541$  U/Lと障害抑制傾向がみられた。また高湿度環境下において飼育したラットでは $4184 \pm 1359$  U/Lと通常環境下で飼育したラットに比べて障害は悪化した。五苓散投与群では $3671 \pm 601$  U/Lと障害の抑制傾向が認められた。組織所見においても同様の傾向が認められた。